

私たちの西地域

《発行》
西地区
区長会

手賀野(手賀野上区, 第1区, 第2区, 会所ヶ丘区)

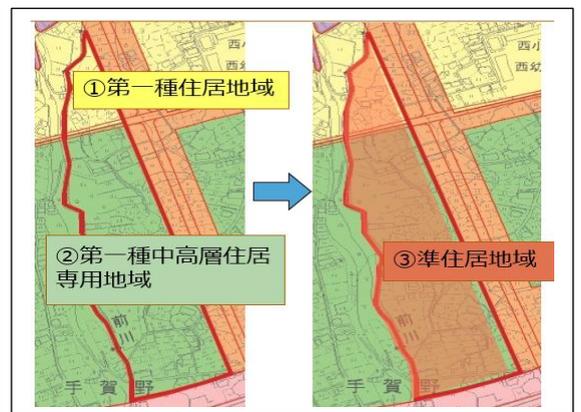
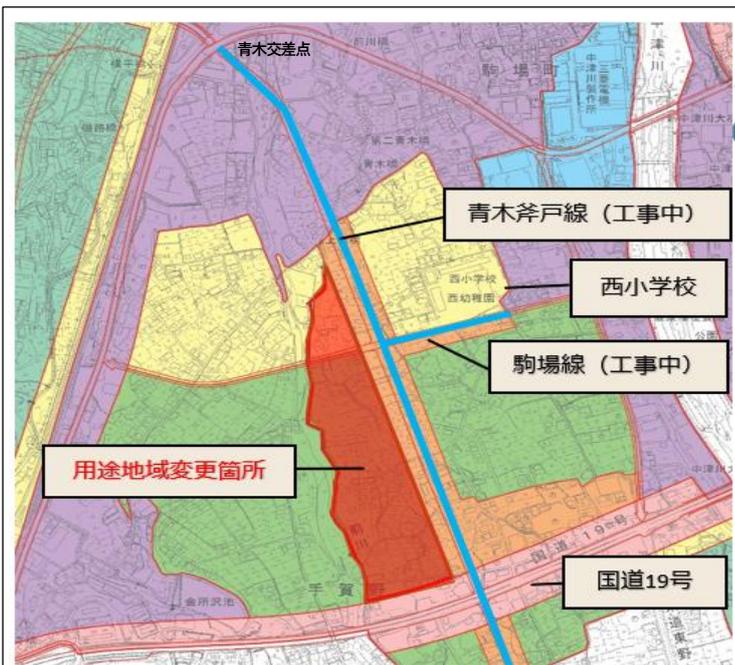
駒場(第3区, 後田区, 松源寺区, 大峽区, 共栄区, 第4区, 第5区, 西ヶ丘区, 大平区, 山手区, 桃山区, 第6区, 第23区)

●都市計画道路「青木斧戸線」道路工事は駒場、手賀野地域で進んでいます 【将来の街づくりをめざして沿道の「用途地域」変更案が提出されます】



《「用途地域」とは》・都市計画法の用途地域は、『秩序ある街の形態を合理的に配置し、良好な環境と適正な都市機能をめざして定められた制度』です。用途地域内では、建築基準法で建築できる建築物の種類と床面積の制限が行われます。今後、道路整備によってこの地域の広域的な利便性が向上し、沿道の土地利用が高まることを予測して、用途地域の変更(沿線の西側、前川まで)が予定されています。

新しい街づくりの計画が進み、西地区区長会と住民が要望する公民館(交流センター)建設も期待されます。



《用途地域の変更内容》

- ①第一種住居地域 (床面積 3,000 m²以下の店舗)
- ②第一種中高層住居専用地域 (同 500 m²以下)
- ※上記の用途が ↓ 計画変更されると
- ③ 準住居地域 では 床面積 10,000 m²以下の店舗が、建築可能となります。

※この広報は市の「地域一括交付金」を活用しています

●市議会「リニア中央新幹線対策特別委員会」の活動

楳松直子委員 (西地区区長会顧問)

西地区の皆様には日頃のご支援に対して、あらためてお礼を申し上げます。

◆地区内には、リニア中央新幹線の中部総合車両基地、駒場非常口、変電所が予定されており、他の地域と比較してもたいへん関わりが深いため、市の取組みや工事の進捗状況などを確認し、皆様にご理解をいただく一助となるよう、2013年から特別委員会の委員を務めさせていただいております。

◆今回は8月4日(火)に開催された特別委員会について概要を報告させていただきます。当日は委員会に先立ち、現地視察として、昨年からの工事が行なわれている瀬戸地内の工事現場(非常口トンネル工事ヤード)と近接する瀬戸残土処理施設において工事の状況の説明を受けました。その後市役所にて次の4項目の報告を受けました。

- ①リニア岐阜県駅周辺整備 ②濃飛横断自動車道
③リニア関連整備事業 ④JR東海の進捗状況、のうち
上記③のリニア関連整備事業で報告された「東濃東部都市間連絡道路」は中津川駅から市民病院、中部総合車両基地を經由してリニア岐阜県駅を結ぶ道路です。現在の道路に加えて西地区内では新設される道路もあります。

◆このような状況を踏まえて委員会の中で、西地区での影響や情報提供はどう対応するのかを質問しました。

答弁では、西(駒場)地区ではリニア中央新幹線の整備に伴い、工事が同時にいくつも行われることが想定されており、住民の皆様の生活への影響を極力少なくするため「リニア関連工事調整会議」を設置したいと考えている。会議は市が主体となり、各事業主体が参加し、工事の調整を行い市民の皆様への周知を行っていく」とのことでした。内容などは、区長会リニア対策部会等で報告される予定です。今後とも皆様の安心安全を第一に活動していきますので、引き続きご協力をお願いします。



(写真は瀬戸非常口トンネル工事ヤード)

●リニア路線と工事の概要 (中津川市の通過延長は約16km、約80%トンネル)

【主な構造物・施設名等】・・・中津川市内の工事

中央アルプストンネル、山口非常口、第一木曾川橋梁、瀬戸トンネル、瀬戸非常口、第二木曾川橋梁、駒場トンネル、駒場非常口、新中津川変電所、岐阜県駅(仮称)、坂本川橋梁、二軒屋線路橋、中部総合車両基地(基地)、回送線(回送線は通過延長に含みません)

【工事概要】・・・駒場地区の中央新幹線工事関係

工事名称(場所)	工事概要(内容)	工期	請負業者
①駒場トンネル新設 (駒場及び千旦林)	トンネル工事 本線トンネル約 4.7km 非常口(斜坑) 等を含む 変電所用地造成工事	2019年(R元)12月19日から 2026年(R8)6月30日まで	中央新幹線駒場トンネル 新設工事共同企業体 (株)大林組、(株)鴻池 組、(株)大本組)
②中部総合車両基地ほ か新設 (千旦林及び駒場)	車両基地用地造成工 事	2020年(R2)3月19日から 2025年(R7)9月30日まで	中央新幹線中部総合車両 基地ほか新設工事共同企 業体(鹿島建設(株)、ジ ェイアール東海建設 (株)、飛島建設(株))
③第二木曾川橋りょう ほか新設 (瀬戸及び駒場)	橋りょう約340m及 び高架橋約40m工事	契約締結の翌日から 2026年(R8)3月23日まで	(現在、契約手続き中)

(資料：岐阜県ホームページ リニア中央新幹線工事情報より)

●域学連携（区長会と中京学院大学）の取り組みがスタート ～市ホームページでも紹介～

中津西地区区長会では、地域課題解決の一環として手賀野地区にキャンパスを置く中京学院大学と協力し、地域の課題解決に学生の経験や能力を活かすため、「域学連携」の取り組みを始めました。その第一歩として、まずは学生たちに地域のことを知ってもらうため、原善治区長会長らが大学へ出向き、経営学部の金治宏（かなじひろし）准教授のゼミ生徒に西地区の魅力と課題を説明しました。



学生から、「リニア中央新幹線の開通によって、西地地区にどんなメリット・デメリットがあるのか。」「情報発信ツールとして、もっとSNSが活用できると思う。」「知らない場所が多く、行ってみたいと思った。」「増える空き家問題に関心がある。」など、活発な質問や意見が挙がりました。

今後、ゼミの生徒などで西地域を巡り、魅力や課題を体感してもらいながら、情報発信や活動拠点の確保、少子高齢化などの地域課題解決に向けた取り組みを一緒になって進めていきます。

●地域課題に継続的に取り組む新しい組織「まちづくり協議会」の設立にむけた勉強会

西地区区長会では、市役所市民協働課の協力を得て、中津川市区長会連合会の講演や苗木地域まちづくり協議会などの活動に関わってこられた「特定非営利活動法人せき・まちづくりNPO ぶうめらん」代表理事の北村隆幸さんを講師に、区長会役員や地域づくり部会員の勉強会を行いました。

はじめに、人口・世帯のデータとして、少子高齢化の中味が違ってきているとして、“標準世帯”とされるのは全体の約5%しかなく単身世帯が多いこと、64歳から74歳が減っていき、85歳以上が多くなっていくことが予想されることから区長などの役職を受けてくれる人を探すことも大変になる、補完する組織として全国で「小規模多機能自治体（まちづくり協議会）」の設立が進んでいることなどを話してくれました。



そして、「地域をデータで伝える、新しい人が参加できる仕組みづくり、行事や組織の棚卸し」に取り組むことや、組織づくりでは、活動意欲のある人達で動きながら皆に参加してもらう進め方もあること、学校や大学との連携を進めていくことをアドバイスしてくれました。

参加者からは、西地区区長会で地域住民に広報の発行を始めたことや、人口が1万人以上いる西地域に交流センターのような活動拠がないこと、意欲がある人をどう探したらいいのか、区長が今までの業務を行いながら新しい組織を立ち上げることの大変さなどの発言がありました。

北村さんは「活動拠がないことは大きな課題」としながらも、関市をはじめ他市の取り組み事例から、古民家の改修による活動場所の確保、まちづくり協議会に部会を作らなくても団体間のマッチングや「やりたい」を支援できること、毎月開催の“誰でも参加できる円卓会議”などを紹介されました。

中津川市内の他地区でもまちづくり組織の立上げ準備が進んでいます。

西地区区長会では、他市の取り組みも参考にしながら新たな組織づくりをめざしていますので、ご理解ご協力をお願いします。



【魅力がある】 ●疫病厄難除の「津島神社」と「ぎおんば」

駒場地域青木交差点近くにある「津島神社」の御祭神は、素盞雄命(すさのをのみこと)です。人の身に起こる災いと疫病を除くとされ、新しい年を迎えた1月には西地区(駒場)からも中津川の津島部会として多くの氏子の皆さんが伊勢神宮と尾張津島神社(総本社)の初詣参拝に毎年参加されています。夏の風物詩、各区の子供連による提灯行列「ぎおんば」がいつ頃から始められたかは定かではありません。中津川村の人が疫病や天災を鎮めるように京都の祇園祭(ぎおんまつり)にならって「ぎおんば(ワッショイとも呼ばれる)」を始めたとしていますが、元気な子ども達が練り歩くことで「厄除け・清め」の意味が込められていたようです。記録では400年前にさかのぼるとして、江戸時代にはあったともされています。

中山道から分岐して苗木城へ通じていた苗木道(別名:殿様道)が現在も津島神社境内に昔の面影を残していますので、参拝の折には歴史の道も是非ご覧ください。



【思いがある】 ●平和の砦がひろがることを願い地域活動に 第1区 安藤史郎区長

私は戦後生まれで、戦後教育をたっぷり受けて育ちました。当時の小中学校では、戦前の反省のもと、平和と民主主義の教育が力強く進められ、新しい憲法、そして国際連合について学びました。「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚する……」で始まる憲法前文の平和主義は、世界に誇れるものと子供ながらに思っていました。現在の世界の指導者たちにこそ、日本国憲法の前文を読んで聞かせたいと強く思います。戦後国際連合が設立され、その中にユネスコが創設され、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という前文も、強く印象に残っています。大学でユネスコクラブに入り、「無知と偏見が戦争を引き起こしてきた」から、教育、科学、文化が世界中で大切にされなければならないと感じ、卒業後はユネスコの理念を意識しながら教育に携わってきました。

愛知県で6年間、岐阜県に移って32年間教職でしたが、中津川市に勤めたことがなく地域の活動には全く関わって来なかったため、定年退職後は、家業と趣味、地域に関わる活動をしたいと考えてきました。副区長を頼まれ、三年後には区長で現在に至っています。できる限り多くの人と関わり、心の中の平和の砦が広がってくれればと願いつつ活動しています。毎月一回開いている「愉快地飲んで政治を語る会」(各月の話題は、ブログで公開中)も小さな歩みですが、活動の一つです。

【人がいる】 ●祖父の栗栽培のロマンを家訓の“創意工夫”で引継ぐ 林 雅広さん

市内駒場地域、西山と呼ばれる高台に「はやし農場」があります。大正2年に開墾した土地で栗栽培を始め「林1号」を生み出した祖父の林與八さん、落花生事業に取り組んだ父の栄一さんですが、林雅広さんは、理科の教師で定年後に農業を始めました。

「農業は大変で収入も少ないからやらなかった」という林さんの転機は、奥さんが仕事を辞め親の介護をしながら熱心に農作業をする姿を見てから。人生をトライアスロンに例え、第二種目は百姓だと。

市内の農業関係者20名が参加する“農楽会”で情報交換をしながら敷地を開放して楽市楽座も開催し、「先輩たちや色々な人の交流が本当に助けになり、今は面白く幸せを感じる毎日で楽しい。」と話す林さん。多くのマスコミ取材もあってか、毎年、名古屋方面などから約6千人のお客さんが来園。渋皮が簡単にむけるポロタンを他に先駆けて栽培を始め、えな宝来、林1号・2号などをさらに美味しくするため水温熟成に着目し、“あまろん”というネーミングやキャラクターも考案。ご自身で来園者に紹介する市内の魅力地図や栗料理を紹介したチラシも作ってPRしています。

特に熱く語るのは栗栽培より“魅力のネットワーク”のこと。地域全体をテーマパークととらえ「来た人に地域の誇りに触れてもらう、このことがリニアのまちづくりだ」と。地域の将来を見据えてお客さんをもっと満足させたいと意欲を燃やしています。 <http://www.takenet.or.jp/~hayasi/>

